

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2374900302
法人名	有限会社 三カ所
事業所名	グループホーム むつみ苑
訪問調査日	平成20年11月13日
評価確定日	平成21年1月14日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2374900302		
法人名	有限会社 三カ所		
事業所名	グループホーム むつみ苑		
所在地 (電話番号)	愛知県日進市本郷町西原北通871 (電話) 0561-73-7206		
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成20年11月13日	評価確定日	平成21年1月14日

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 10 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 14 人	

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費他 日額930円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	60 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西崎クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>今回評価で連続3年・同評価調査員での3回目の評価である。毎年同じ目でホームの変化を確認できたのは、評価員冥利に尽きるものがある。この3年間のホームの取り組みには、「何をどうしてどうなったか」という、大きな変化があったわけではない。いかにして利用者の「普通の生活」継続を支援するか、どうやって「その人らしさ」を支援するか、という、いたって素朴な、言わねばグループホームの目指すサービス提供の基本を、管理者・職員の「思い」と「信念」で磨きをかけ、1年・また1年・さらに1年という時間の経過とともに、更なる充実を実現したことに他ならないように思われる。サービスの質の改善は、まさに内から生れ出るホームであり、現在を最高としない、さらに高みを目指す管理者・職員の精神をもってすれば、今後の取り組み継続・更なる充実にも期待ができる。職員の離職もほとんど無く、ぶれることのない方針の共有・実践こそがホームの最大の強みであると思われる。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前は、ホーム運営全般に対し、更なる支援充実を期待した評価結果となっていた。今回調査時にはその期待通り、変わらぬ支援継続と取り組みの努力があり、活気のあるホームの雰囲気からも、充実した日常支援を推察できた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>毎年実施する自己評価では、現時点のホームの取り組みを開示することを目的とし、管理者が中心となって振り返り評価を行っている。自己評価・外部評価で見出した「気付き」を具体的な改善課題につなげ、取り組む意識が高く、評価の意義を理解していると言える。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>概ね2カ月毎の会議開催がある。毎回10名程度の参加があり、活動報告・意見交換会の場として活用している。今年度から、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で会議を開催しており、法人事業所を地域の社会資源として認識した積極的な取り組みがある。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月の利用料の受け取りを事業所で直接行う方針がある。月に一回の家族訪問の機会確保により、介護計画の説明も含め、ホームからの報告の機会となっている。緊急・急変時には随時の電話連絡等を行う等、状況に合わせた柔軟な対応がある。また、家族とのより良い関係作りに努め、相互の信頼関係の中で、相談・要望の聴き取りから実現につなげる取り組みを継続している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームとして、地域自治会への加入、地域の行事・奉仕活動等への参加など、地域の中の一帯帯として近隣との交流に努めている。また、外出・散歩時の挨拶等、開設から6年の地道な活動が実を結び、ホームで暮らす利用者の「普通の生活」の継続に結びついている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で、生活の継続を考えるホームの理念がある。ホームの暮らしを、利用者の第二の「自宅」にする理念で、家庭的で安心できる雰囲気作りを第一に考えている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は、理念をよく理解し、日常支援の基本を、理念から方針に落とし込み、利用者一人ひとりの尊重、居場所作り等、具体的な支援につなげている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして、地域自治会への加入、地域の行事・奉仕活動等への参加など、地域の中の一世帯として近隣との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年実施する自己評価では、現時点のホームの取り組みを開示することを目的とし、管理者が中心となって振り返り評価を行っている。自己評価・外部評価で見出した「気付き」を具体的な改善課題につなげ、取り組む意識が高く、評価の意義を理解していると言える。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2カ月毎の会議開催がある。毎回10名程度の参加があり、活動報告・意見交換会の場として活用している。今年度から、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で会議を開催しており、法人事業所を地域の社会資源として認識した積極的な取り組みがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームに関わる相談・助言を通じ、市担当者との良好な関係作りに努めている。また、介護相談員を定期的に受け入れ、外部者の意見を仰ぎ、ホームの運営・サービスに活かす取り組みがある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料の受け取りを事業所で直接行う方針がある。月に一回の家族訪問の機会確保により、介護計画の説明も含め、ホームからの報告の機会となっている。緊急・急変時には随時の電話連絡等を行う等、状況に合わせた柔軟な対応がある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのより良い関係作りに努め、相互の信頼関係の中で、相談・要望の聴き取りから実現につなげる取り組みを継続している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係・環境作りをホームの支援の基本に位置付け、各ユニットは職員固定で日常支援を実践している。また、管理者は、職員の職場環境にも配慮し、離職予防に努め、利用者の生活環境安定につなげている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量・キャリアに合わせ、スキルアップを目指す研修受講を促している。介護福祉士・介護支援専門員等の資格取得に対しても、ホームとしての協力体制があり、毎年多数の合格者がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム協議会加入・部会参加等で同業者との交流を図り、情報交換・意見交換を行っている。また、研修参加時にも同業者との交流は可能であり、聴き取った情報をホームの運営に活かし、サービスに反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者の居場所作りに配慮し、徐々に生活に慣れてもらう工夫をしている。家族の協力を仰ぎ、急な環境変化を避け、利用者・家族・ホームが相互に納得した形でサービス利用開始となっている。職員もそれをよく理解し、利用者が、早期にホームの生活に慣れるように、様々な仲介を支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、ホームの生活が、利用者の生活の継続である事をよく理解し、利用者の尊厳を守り、支え・支えられる信頼関係の構築に努めている。ホームの雰囲気は、各ユニットとも、ひとつ屋根の下で暮らす、秩序のある大家族の雰囲気がある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、日々の関わりの中で、利用者の言葉・表情・行動等から本人の希望・意向の把握に努めている。また、家族とも話し合い、利用者の視点から検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者毎の状況・状態把握を目的とした、月1回のユニット会議を開催している。職員意見・介護日誌・連絡ノート等を参考に、利用者毎の課題を抽出し、職員間で情報の共有を図り、その結果を介護計画に反映させ、利用者本位の生活支援につなげている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の現状把握のため、月1回のモニタリングを実施している。介護計画に沿わない状態・状況変化が生じた場合は、迅速に課題抽出を図り、本人・家族の意向を踏まえ、現状に合った介護計画の立案・作成を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常勤看護師を配置し、医療機関との連携を充実させ、利用者の健康管理を実践し、利用者・家族の安心となっている。また、利用者毎の希望・要望実現に積極的に取り組み、外出等の支援に臨機応変の対応をしている。		本年度、法人敷地内に小規模多機能型居宅介護事業所開設を実現し、当初からの目的であった相乗効果に取り組んでいる。事業所間の相乗効果にとどまることなく、地域の社会資源として、地域への効果にも大いに期待するところである。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による月2回の往診を行っている。また、従来からのかかりつけ医の受診希望があれば、個別に対応している。さらに常勤の看護師を配置し、医療機関との連携が図られており、利用者・家族にとっての十分な安心が推察できる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の希望・要望に対し、ホームができる限りの対応・支援を行う方針がある。利用者・家族毎の希望・要望把握に努め、職員間で情報を共有し、方針に沿った支援を実践する体制がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳の尊重を、法人の運営理念・方針に掲げ、全職員に周知徹底を図っている。訪問調査当日も、職員は利用者に優しい態度で声掛けし、トイレ誘導時にも、周囲に気遣う等の配慮が見られた。個人記録等の保管に関しては、事務所で一括管理を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活として一日の大まかな生活時間帯の中で、利用者の健康状態や、気持ち・希望を確認し、あくまでも毎日の生活が本人本位であるように配慮している。買い物・散歩等、個人の強い希望に対しては、個別対応も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、机拭き・盛り付け、片付け等の食事に関する一連の作業を、利用者と共にしている。また、一緒に食事する事で、さりげない食事介助・声掛け等のサポートを行い、コミュニケーションを大切にしながら、利用者にとって、美味しい・楽しい食事となるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能であり、一人ひとりの健康状態を確認した上で提供している。また、同性介助者を好む利用者については要望に沿った支援を行い、入浴を拒む方についても強引にせず、足浴マッサージを活用する等、個人の状況に応じ、柔軟に対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量・特性を活かし、洗濯物の仕分け・掃除・セラピー犬の世話・金魚のエサやり等、日常生活の中で利用者の活躍の場面を支援している。利用者同士・職員と利用者の助け合いの場面もあり、利用者のやりがいにつながっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は、散歩・ウッドデッキでの日光浴等、1日1回は屋外へ出ることを心掛けている。ホーム行事としての外出も多く企画し、ホーム所有の車椅子搭乗車2台を外出時に活用している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・ユニット間等、ホーム内の施錠は一切行っていないが、利用者の安全性を考慮し、玄関の内側はオートロックとなっている。家族・関係者には、施錠についての説明を行い、理解を得ている。また、日常支援では、施錠に頼ることなく、外出希望・傾向にある利用者には適切な対応を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備え屋外の倉庫に飲料水・食料を備蓄している。また、避難訓練とともに、消防署の協力を得て、避難経路の確認や消火器の使用方の訓練を行い、火災・災害の実際に備えた取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとの食事を毎回記録に残し、健康状態の把握に活かしている。利用者毎の体調・状態に合わせ、食事量・調理方法に配慮し、同様に水分摂取量に対しても利用者毎に管理を行っている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間・トイレ・廊下等の共用空間は十分なスペースがあり、掃除の行き届いた室内の、室温・空調・照明の調整は適切であった。また、利用者の居場所作りにも配慮があり、思い思いの場所で、利用者同士や来訪した家族との歓談を楽しむ和やかな光景があった。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の大切な家族の写真、好きな歌手のポスターや自作品が自由に飾られ、馴染みの物品も多く持ち込まれていた。一人ひとりの個性・生活感が感じられ、居心地の良さがうかがえた。		